

○ 1月20日(火)

## 府立学校スクールミーティング(府立嵯峨野高等学校)

---

### ○ 平塚 委員



テーマを掲げて英語で討論をするという授業の取組により、まさにグローバル社会のリーダーとして通用する英語スキルを修得していく姿を目の当たりにし、頼もしく感じました。

また、化学・生物等の実験が取り入れられたユニークで高度な授業が、質の高い学力を育成しており、今後生徒が成長していく上で非常に貴重な体験であると思います。

さらに、京都府立大学から教授を招き、「陸域環境の基盤としての土壌」と題された世界の人口、土地、穀物を対比させるような授業に、学校としてのレベルの高さを感じました。日々の教員との交流を通し、生き生きとした目で生徒が学校生活を送っている姿が非常に印象深く感じました。

○ 1月20日(火)

## 府立学校スクールミーティング(府立嵯峨野高等学校)

### ○ 安藤 委員



緊張感漂う教室には、授業に向かう真剣な表情の生徒たちと黒板に書かれた【The Japanese government should abolish nuclear power plants.】のテーマ。時事的な題材を使ってオールイングリッシュでのディベートが始まりました。

与えられた課題のテーマに沿った下調べや、事前の資料収集にも余念がなく、こちらが圧倒されるほどとても流暢な英語で論理的な主張が繰り広げられていきました。するどい質問や相手の矛盾点を突いて討論を展開していくその様子は、まるで大学の講義のようでした。

一方、自然科学系統のスーパーサイエンスラボの探究活動では、物理、化学、生物という一つの枠にとどまらない多岐にわたる課題研究に熱心に取り組んでいる姿を見学することができました。

1年を通して取り組む研究の題材や探究心旺盛な生徒の「不思議」も奥が深く、実験に使用する材料、生物も多種多様で、ウーパールーパー、ITOガラスを使った実験等、実に個性的なものばかりでした。充実した設備や実験機器はもちろんですが、何より指導する教員の卓越した専門性や熱心さが探究活動への意欲を高めているように感じました。飼育の苦労話や失敗談など、未来の研究者を思わせるような面持ちで個々の実験について丁寧に教えてくれました。

SGHフロリダ研修参加生徒との意見交換では、現地の生徒やホストファミリーとの交流を通して自国に関心を持つと同時に、身近な日常文化を改めて意識するきっかけとなったなど、海外での貴重な体験をそれぞれに語ってくれました。また、嵯峨野高校の近隣には文化財や風情ある嵐山の景観があり、京都文化や日本文化を学ぶ機会もたくさんあるようです。「京都」の町や人から体験的に学び、身近にある環境をいかしたフィールドワークなども全て英語で行うなど、日々の学習が留学先での学びにつながっている実感がもてたようでした。

嵯峨野高校には進学や受験を一元化した授業とは一味違い、「探究心を向上させる要素」がたくさんありました。「授業がおもしろい。」「すぐそばに頼れる先生がいる。」など学び続けることの楽しさや大切さを導く、先生方の魅力も特色の一つかもしれません。

校舎を後にする時、部活動に励む生徒の姿が目に入りました。高校生でしかできない経験もたくさんあります。失敗も成功も謙虚に受け入れ、豊かな「人間性の基盤」もしっかりと育ててほしいと願っています。